

今は亡き望月郁文・根岸俊郎両兄と小田高 1 1 期会を偲んで

故望月郁文兄(3 組)ご夫人の望月園さんと娘さんの大水清世さんからの「特に逝去の際に身近にいらしていただいてお世話になった皆さんに偲んでいただきたくて」というお誘いを受けて、宝安寺で開かれた「望月郁文を偲ぶ会」に参加してきました。お招きいただいたのは中澤秀夫、水口幸治、山本哲照(いずれも 7 組)と不詳私・佐々木洋(3 組)の{旅烏四人組}と、故根岸俊郎兄(3 組)ご夫人の根岸幸子さんと娘さんの小林祐子さんの計 6 名。{旅烏四人組}とは還暦記念カナダ・アメリカ西部ドライブ旅行に始まって、ヨーロッパ、東南アジアを旅行しまくったグループですが、元をたせば、これに故望月郁文(3 組)故藤井暉生(7 組)両兄も加わって、小田高 1 年生の時から麻雀を楽しんでいた仲間です。小田原の名刹・宝安寺の住職が高校時代から麻雀に興じていたなんて望月園さんと大水清世さん、それに、も根岸幸子さんと小林祐子さんも多分ご存知ではなかったことでしょう。

しかし、故望月郁文、中澤秀夫、水口幸治、山本哲照の 4 兄は、更に遡って、愛児園(幼稚園)、城内小学校、城山中学校時代を通じての文字通りの“竹馬の友”同士ですので、本町小学校出身の私ごときにその有様を偲ぶ縁があるはずがありません。また、故根岸俊郎兄も同じ城内小学校卒業ですが、水口幸治兄によると「城内小学校、城山中学校、小田高と 12 年間も同じ学校で過ごしたんだけど 1 回も同じクラスにならなかったなあ」だとのこと。これは本町小学校卒業の故茂登山東一郎兄(2 組)と私も同様でした。私が故茂登山東一郎兄と個人的に親しくなれたのも、プロ絵画作品の「小田高 11 期生の“個”展」への出展をお勧めするために、下赤隆信兄と三木邦之兄の 2 組幹事コンビとともに南足柄のお住まいまで押し掛けたからこそでした。こんなハッピーな再会を果たすことができたのも小田高 11 期会があればこそだったのではないかと思います。

そして、「小田高 11 期生の“個”展」を実現することができたのも、故望月郁文兄が宝安寺社会事業部ビル内に設けられた「茶のまある」を展示会場として快く貸してくださったからこそできたことでした。お陰様で随分多くの小田高 11 期生が「茶のまある」に押しかけて同期生の出展物を観賞しあえるようになり、ついには、「茶のまある」をベースとして、故榮憲道兄(6 組)の渾身の努力によって、恐らく小田高同窓会のどこにも類例のない“小田高 11 期生五七五作品制作者の輪”ともいうべき「俳句・川柳・短歌初心者塾」が形成され、以下の 18 名の投稿を集めた作品集が刊行されるに至ったことも昨日のことに追想されます。

- (2 組) 石井敬士・久野厚夫・下赤隆信・真壁徳光・三木邦之
- (3 組) 辻秀志・根岸幸子(根岸俊郎夫人・城内高校 11 期生)・佐々木洋
- (4 組) 今道周雄・山崎泰 (5 組) 柳川壱信／恭子
- (6 組) 市川陸雄・井上幸三・瀬戸章嗣・月村博・榮憲道／喜代子 (7 組) 斎藤良夫
(城内高校 11 期生) 瀬戸松子(城内高校 11 期生)・大沢優子(城内高校 20 期生)
- (同期テニス会) 上田淳

また、小田原高校との統合によって母校を失った形の城内高校卒業生を新小田原高校生として小田高 11 期会メンバーに迎え入れようとした動きも徐々に広がってきていました。上記の「俳句・川柳・短歌初心者塾」に俳句の指導者格として参加されていた瀬戸(旧姓:相田)松子さんは城内高校 11 期生ですから、まさに“純正新小田原高校同期生”でした。亡くなったご主人が、私が大学時代に大河内一男ゼミナールでお世話になった瀬戸勇さんだとわかった時にはビックリだったのですが、同じく小田急線栢山駅から早稲田大学に通学していて、お互いの家にも往き来した旧知の間柄だった瀬戸松子さんの参入は塾長の故榮憲道兄(6 組)にとっては信じがたい僥倖だったに違いありません。私も、小田高 11 期会旗揚げの“下手人トリオ”のうちの故井上久嘉(2 組)の妹さんで故海野尚光(7 組)の伴侶となっておられた海野恵美子さん(城内高 13 期生)とめぐりあうという僥倖に恵まれ感動した記憶があります。

こんな新小田原高校生の 11 期会活動への勧誘に大きく貢献してくださったのが根岸幸子さんでした。幸子さんのお話によると、60 年余りにも昔に、根岸俊郎、望月郁文、青木三郎、川上尚久の 3 組勢と茂登山東一郎(2 組)の 5 名と小田高 11 期生が城内高校 13 期生 6 名が清い交際をされていたのだそうです。こんなことは、私たち元麻雀仲間には、まったく伝わってきていなかったのですが、幸子さんにとっては小田高 11 期生グループとの交際が何事にも代えがたい貴重な思い出となったことでしょう。そして、“夢よもう一度”に近い思いで城内高校出身者に対して新小田原高校同期会活動への参加を呼びかけられたのかもしれませんが。まして、城内高校出身者には、御自らまたはそのお子さんやお孫さんに宝安寺社会事業部の運営する小田原愛児園のお世話になった人が多いことが判明。「小田高 11 期生の“個”展」観賞のため「茶のまある」に来られた城内高校卒業の新小田原高校生 7-8 名だけで故望月郁文兄を囲んで、宝安寺およびその社会事業について講話を聴く機会を設けられていました。

故根岸俊郎兄は、小田高時代に”ソフトボールの長嶋茂雄”で不動の三塁手・四番バッターの颯爽としたスポーツマンだったのですが、心優しくて面倒見の良いところがありました。辻秀志兄(3 組)や杉山剛兄(5 組)も参加している八幡山テニスクラブのハイキング会ではいつもリーダー役をはたしていました。城内小学校跡地で毎朝ラジオ体操をしている「和みの会」でも最古参者で親切に私を導き入れてくれました。そのうちに、望月郁文兄も参加し、そのうえに故市川陸雄兄(6 組)や中澤秀夫兄(7 組)も加わり、小田高 11 期会は「和みの会」の中の最大”派閥”になっていたのかもしれませんが。ですから、「小田高 11 期生の“個”展」には「和みの会」や八幡山テニスクラブのメンバーも、我が仲間の展示会とばかりに「茶のまある」に足を運んでくださっていました。

根岸敏郎兄は、城内小学校 1 年生の時から望月郁文兄と同じクラスで、近年は、望月園さんと根岸幸子さん、そして、娘さんの清世さんと小林祐子さんが仲良しであったところから、家族ぐるみのお付き合いをされていたようです。そして、根岸俊郎兄の病状が悪化して逝去した時には、望月郁文兄が語っていた「根岸君のことは私が引き受けるよ」という言葉の通りに、自分の体調はまるで顧みることなく駆けつけて読経して戒名を授ける傍ら、幸子さんもご存知でなかった敏郎兄とそこでご両親やご兄弟の幼き頃の思い出を楽しく語って根岸家ご家族一同に元気を与えていたのだとか。お二人の間にも別の形の“竹馬の友関係”があったのだということを改めて知りました。ご馳走とお酒をいただきながらの、両故人ばかりでなく今は亡き小田高 11 期生会を偲ぶ会ともなったのなりましたが、心通い合わせる大切なひと時を過ごさせていただきました。フィナーレを飾って小林祐子さんが奏でてくれたバイオリン演奏が今を生きる私たち一同の心に伝わり、思わず涙が伝い出て来てしまいました。

私は出席メンバーによって思い出の領域がずれているのではないかと心配して、山本哲照兄発 Web11 記事「学生時代の私はどんな子供だったのか」happyou.t.yamamoto_20.pdf (odako11.net)のコピーを持参したのですが、大水清世さんがいち早く目を止めてくださって、「ああ、その記事なら私が人数分コピーしておきました」と声をかけて一人一人に配布してくださいました。「清世さんが Web11 を読んでいてくださっていたのだ」と驚くとともに大きな喜びを感じました。今は亡き小田高 11 期生会、されど Web11 はいまだ健在。小田高 11 期生会の心の灯をえさせないように、メンバー各位が Web11 を通じて心を通い合わせ続けることができますように再度一筆加えさせていただきます。短い感想文や近況報告でも OK だと思います。各位のご投稿によって、Web11 の編集によって小田高 11 期会の灯を消さず守り続けておられる今道周雄編集長殿を元気づけていこうではありませんか。

以上